

長岡市・栃尾市合併協議会
第2回新市建設計画策定小委員会

議 事 録

第2回新市建設計画策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成17年2月8日(火) 午後7時20分
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸
外山 康男 平林 豊作 阿部 誠一

以上 7名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡市・栃尾市合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

それでは、定刻前ではありますが、委員全員おそろいですので、ただいまから第2回新市建設計画策定小委員会を開催いたします。

なお、本日の小委員会では委員全員からご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

また、ご発言の際にはお近くのマイクをお使いくださるようお願いいたします。

それでは、資料の確認をお願いしたいと思います。資料は、資料の1、2、2種類でございます。

この後の進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、早速でございますけれども、議事に入らせていただきます。

きょうご議論いただきますのは、新市建設計画書（素案）についてということになっておりまして、今まで長岡市と栃尾市との合併において必要な施策が今までの会議、ご発言等をベースにいたしまして整理されております。その内容についてご確認をいただくということで、事務局から説明をしていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明をいたします。

お手元の資料1、長岡市・栃尾市新市建設計画（案）をごらんください。こちらの建設計画の案につきましては、既に作成されております長岡地域6市町村の建設計画をベースに追記、修正をしております。追記、または修正箇所は網かけをしております。

表紙を1枚おめくりください。左の方に目次として序章から10章まで構成をされております。特に今回修正、追記している箇所につきましては、まず第1章、新市の概況からみた可能性、それから第2章ですけれども、地域の夢の部分に栃尾市さんの分を追記しております。それから、第4章の戦略的事業の部分につきまして、特に追記を加えております。5章、6章は特に追記はしておりません。それから、第7章、新市建設の根幹となる新潟県事業としましても、こちらは追記をしております。第9章、財政計画につきましては、栃尾市さんが入る分につきまして修正を加えてございます。

続きまして、7ページをごらんください。7ページから第1章、新市の概況からみた可能性ということでまとめてございます。特に第1回目で提出させていただいた分と特に変更等はございません。ただ1カ所、14ページをお開きください。こちらの都市計画区域の下のグラフなんですけど、第1回目のときには栃尾市さんの都市計画区域面積で市街化区域とか、それから市街化調整区域、面積が指定されていませんでした。それで、指定区域外の面積の中に入れていましたもので、今回修正いたしまして、その他指定区域面積2.6%、こちらに修正をさせていただきました。第1章、あと22ページまではその他修

正等は第1回目と今回は修正等はありません。

それから第2章、23ページからでございます。こちらの新市将来構想の概要をまとめておまして、まちづくりの基本方針をまとめてございます。今回追記した箇所が34ページでございます。こちらの地域の夢、いわゆる地域別整備活動方針を実現すべき栃尾の姿として、それぞれの地域らしさ価値ごとに追記をしてございます。それから、同じく35ページ、36ページは6市町村のものに栃尾市さんのものを追記をしているということでございます。

それから、第3章が37ページから始まりますけれども、こちらの新市建設計画策定の基本的な考え方をまとめてございます。こちらは特に修正、追記等はありません。

続きまして、45ページ、第4章をごらんください。こちらが新市建設の施策1として、戦略的事業をまとめてございます。こちらは、新市将来構想の実現に向けた事業であり、住民と行政が一体となって今後10年の間に取り組んでいくべき事業でございます。こちら新市として取り組んでいくものとして整理されております。その中でも特に栃尾地域の資源や強みを活用して、新市の地域らしさ価値を高めていく、そういった活動を加えたものでございます。

まず、46ページをごらんください。こちらは「元気に満ちた米産地」に向けた戦略的事業として、下にありますように魅力ある海・川・山創出事業を追記してございます。

続きましては、48ページをごらんください。「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に向けた戦略的事業として、真ん中ほどに市民レベルでの歴史物語交流促進事業を追記してございます。

それから、49ページからリーディングプロジェクトでございます。まず、50ページをごらんください。こちらの表は、左から重点実現項目、戦略方針、リーディングプロジェクトでまとめてございます。まず、独創企業が生まれ育つ都市に関するもので、一番上にございます地域産業ブランド力強化事業ということで、栃尾市さんの繊維産業のことを追記しております。長岡造形大学などの研究機関や企業との連携により、繊維産業の技術・伝統を生かした新しい商品開発を促進するという追記をしてございます。

続きまして、54ページをごらんください。こちらは、元気に満ちた米産地でございます。重点実現項目といたしましては、蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出すでございます。一番下にございます。魅力ある海・川・山創出事業ということで、こちらは栃尾地域の刈谷田川の源流で先行的に取り組むということで、いわゆる海に注ぐ川とか、それから源となる山を市民全体で守っていくと。それを源流の方から守っていきましょうということで新市全体で取り組んでいくものでございます。

続きまして、56ページをごらんください。こちらは、世代がつながる安住都市に関するものでございます。「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進ということの中で、栃尾市さんは剣道を通していろんな取り組みが行われているわけでございます。今回健康づくり強化推進事業のところ、武道やスポーツを通し、熟年層と子どもたちの心のふれあいを醸成する、地域ぐるみの仕組みをつくると

ということで追記をしてございます。同じく56ページでございます。地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、青少年体験型学習推進事業でございます。森づくりや農業など地域の営みの文化を伝える体験学習ボランティアの組織化と、場づくりを促進するということで、いわゆる炭焼きなどの森の恵みを体験し、豊かな感性をはぐくむ、そしてかつて栃尾市さんが炭などの森林資源の供給地であったということから、栃尾地域で先行的に取り組むということで追記をしてございます。

続きまして、60ページをごらんください。重点実現項目は、すべての市民が「新ながおか親善大使」ということで、市民レベルでの歴史物語交流促進事業として追記をしてございます。新市各地域の歴史上の物語を通じ、新市内外の市民レベルでの交流を促進するということで、今回栃尾市さんが会津への玄関口であるということから、歴史上の地域間や人のつながりを再発見し、交流ルートの開発や市民レベルの交流に結びつく活動を促進するということで、会津との交流を先行的に取り組むということで追記をしてございます。

続きましては、61ページの下の方をごらんください。こちらは、戦略方針として、市民参画による地域資源を活用した市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行うということで、景観・街なみ形成保全促進事業です。その中で街なみ、歴史資源のネットワーク化に向けた市民参画の仕組みをつくり、街歩きツアーなどへの展開を図るということで、栃尾市さんは上杉謙信が6年間にわたり過ごしたそういった歴史があるということ、あるいはそれから雁木の街並みを今に伝える気風があるということから、栃尾地域で「謙信を育てた里づくり」として先行的に取り組むということで追記をしてございます。あとリーディングプロジェクト以外の事業概要につきましては、62ページ、63ページで新市全体の中で取り組んでいるものでございます。

続きまして、第5章、64ページです。こちらの生活基盤整備事業ということで、住民の皆さんの安心感の形成につながるものでございます。こちらは新市全体として取り組んでいきます。その必要性や緊急性を個別に判断した上でそれぞれ順次事業に着手することになります。こちらが67ページまででございます。特に追記、修正等はありません。

それから、第6章が68ページです。こちら合併に伴い必要となる事業ということで、一体感の形成につながる事業でございます。こちらも生活基盤整備事業と同じくその必要性や緊急性を個別に判断する上で順次事業に着手することになります。

続きまして、第7章、70ページでございます。新市建設の根幹となる新潟県事業です。まず、道路整備です。道路整備として、一般国道290号、栃尾市赤谷地区、それから真ん中ほですけど、一般国道351号と、栃尾市北荷頃から比礼ということで、こちら登坂車線を整備するものでございます。

続きまして、71ページです。河川・砂防整備というところで、砂防として、来伝川通常砂防事業を追記してございます。

続きまして、72ページをごらんください。こちら農林業基盤の整備をまとめてございます。下の方にありますけれども、基幹林道として林道人面・九川線開設事業ということ、それから農村整備では、中

山間地域総合整備事業として栃尾市の東谷地区を追記してございます。

続きまして、74ページ、第8章、公共施設の適正配置については、修正等はございません。

第9章、財政計画につきましては、後でご説明をいたします。

続いて、77ページ、第10章、新市建設計画の推進に向けてと、新しい地域経営のあり方についてまとめてございますけれども、こちらも修正、追記等はございません。

続いて、第9章、財政計画を説明いたします。

事務局（大滝）

財政計画について説明をいたします。

75ページをお開きください。この財政計画は、既に決定をされております長岡地域合併協議会の財政計画に栃尾市の財政見通しを加え、合併に伴う削減経費や住民サービス向上のための経費、合併特例債事業、国、県の財政支援措置などを考慮して、新市の10年間の財政規模を算出したものでございます。建設計画は事業の実施計画ではありませんので、この財政計画は毎年度の実施予算を示すものではなく、10年間のおおむねの財政規模や傾向を示すものでございます。算出の仕方は、長岡地域合併協議会のときと同様でありますので、75ページに記載しております1、基本的考え方、2、前提条件につきましては、長岡地域合併協議会のときと同じであります。その結果、新市の財政計画は76ページに掲げております数値のとおりとなりました。総額は9,777億円でございます。単年度では978億円程度ということになります。

続きまして、お手元に配付してございます資料の2というのをごらんください。財政計画についてという資料です。ここに合併に伴う10年間の財政影響額や計画作成に当たり留意した点を掲げました。主な削減経費といたしまして、人件費で186億円を、物件費は合併に伴うスケールメリットとして37億円を見込むものでございます。

次に、制度調整により住民サービスを向上するための経費といたしまして34億円を見込んでおります。建設事業費につきましては、地方交付税等の一般財源の減少が見込まれることから、将来の財政負担を考慮し、単年度で過去3カ年の平均事業費を上回らないように見込んでおります。また、合併特例債につきましては、その上限額の90%の511億円を使うこととして見込んでおります。さらに、有利な起債であります合併特例債を通常の建設事業の起債にできるだけ振りかえて活用するというようにしております。

次に、旧市町村単位の地域振興や住民の一体感の醸成のために、その運用益を活用できる基金が造成できますが、それを40億円見込んでおります。

最後に、合併後の臨時的な経費に対して地方交付税や国、県補助金の支援措置がありますので、それを103億円見込んでおるものでございます。

以上で財政計画の説明を終わります。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ただいま事務局から説明をしてもらいましたけれども、建設計画書、第1章から始まりまして、第2章、14ページ、34ページ、35ページ、36ページあたりいろいろ資料の追記がございます。基本的には第4章のリーディングプロジェクト、ここにかなり具体的な今までいただいた新しいプロジェクトが追記されております。これを含めて何かご質問、ご意見ありましたらお受けしたいと思います。県の事業等も道路ないし河川等につきまして追記されております。

はい。

委員（大地正幸）

56ページの上段の方、ここで武道やスポーツを通じ、熟年層と子どもたちの心のふれあいを醸成する、地域ぐるみの仕組みをつくると。これは、武道というのは栃尾の剣道をかなり意識したものというふうに理解しているわけですが、それでこれはその上の記載のように、例えばどこどこ地域で先行的にと、こういうふうな表現は記載しないわけですか。

委員長（豊口 協）

事務局いかがですか。お願いします。

事務局（竹見）

こちらは、新市全体として取り組んでいくものであって、今回栃尾市さんとの合併をきっかけに取り組んでいったらどうかというものでございます。

委員長（豊口 協）

新しい新市の全体のプロジェクトとしてこれを取り上げると、こういうことですね。

ほかにご質問がありましたらお願いしたいと思います。

委員（鯉江康正）

35ページなんですけど、地域らしさ価値1の栃尾地域のところに栃尾ブランドという言葉が出てくるのですが、ほかのところを見ると、各地域の名称というのはどこにも入っていないみたいなんですけど、これはわざわざ栃尾ブランドという必要があるんですか。多分野のブランドづくりでいいような気がします。何か新市になったときにここだけ名前が出てくるというのがちょっと奇異な感じを受けたんですけども。

委員長（豊口 協）

事務局いかがですか。

事務局（竹見）

将来構想をつくるときにさかのぼるんですけど、将来構想の方で繊維産業を核としようということの中で、繊維産業についていろんな素材から今新素材とか、中には航空機のタイヤの方にも進出されている企業がいらっしゃるということの中で、栃尾としての繊維を核としたブランドをつくっていきたいということの中でまとまってきたと思うんですけども、今日栃尾市さんの職員さんがいらっしゃいますので、

もし補足するようなことがあったら。

栃尾市総合政策室（諸橋）

最初の任意合併協議会の話の中で、今ほどの話がありましたが、繊維産業今まで洋服とか、そういう部門だけだったわけですが、最近の傾向としましては、ガラス繊維というものも出てきておりまして、それが防火服や迷彩服、飛行機の内装やタイヤ、最近では手術の時に使用される人工器具の素材にも使うというふうな形で進められているということで、こういう表現になったということでございます。

委員長（豊口 協）

新素材の新技术ということですね。特に強調してアピールしたいと、こういうことですね。何か一つの目玉がはっきりしているということはいいところでありますね。

ほかに。はい、お願いします。

委員（平林豊作）

今ほど事務局の方から話がありましたけど、ご存じのように栃尾は今までというのは繊維産地であり、売上げの全体がそれに携わっている人たちが七、八十％が繊維に携わっているんです。今現在、せんだってもシルバー人材センターの新年会のと時の話なんですけど、今栃尾から3,000名の若い労働力が市外に出ているんです。栃尾に今残っているのというと、さっき言った690人、シルバー人材センターの人たちで産業界をしょって立っていると、ちょっと語弊がありますが、それに変わってきているということ、大変な時期を迎えていることは確かなんです。

委員長（豊口 協）

地域社会の産業構造はかなり変化したということですね、大きく。わかりました。

ほかにご意見はございませんか。

委員（外山康男）

60ページに市民レベルの歴史物語の交流ということで、この前第1回でお話が出まして、ここに盛り込んでいただいたと。あえて私も言わせてもらったんですが、新ながおかの一つの玄関みたいなことを言いましてあれなんですけど、交流というものが盛んになれば、その地域が盛んになるということでございますので、これはこれとして非常にいいところへ入れていただいたなと、こう思っております。それと同時にこの10年計画では市民レベル、やがてはハードも含めて今後また県なり、そういう方面でこれをさらにこういう深みが盛んになるようにハードの方も念頭に置いていただきたい。これは要望でございますが、そういう交流が盛んになるようにひとつお願いしたいと、こう思っています。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

あとはいかがでしょうか。よろしいですか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それでは、今改めてまたいろいろとご意見をいただきました。この意見ないしはご質問の内容につきましては、事務局の方でまた整理をさせていただき、修正をいたしまして、明日ですけれども、2月9日の協議会に報告するという事にいたしますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、これで建設計画書（案）としてまとめることになりましたので、事務局から今後の日程についてひとつお話をお願いしたいと思います。

事務局（高橋）

今ほど委員長からお話ありましたとおり、本日ご審議いただいた内容を明日の協議会にご報告したいというふうに考えております。協議会に報告した後、事前協議という形で県に対し協議書を提出いたします。建設計画書の協議書として提出をいたします。今の予定ですが、3月の上旬から中旬くらいにかけて県の方で意見書という形でこの建設計画書に対して意見を付した形で我々の方に戻していただける予定でございます。それが私どもの方に来ましたら、その意見書を踏まえ、さらに内容を吟味し、加えるべきところは修正を加え、建設計画書としてさらに整理をし、小委員会を開催をしたいというふうに考えております。そして、その小委員会で建設計画書を整理したものを最終的に協議会にお諮りをしたいというふうに考えております。そして、協議会に諮ったものを今度は正式な協議として県に再度上げる予定でございます。そして、県の正式な回答を待って調印式を行いたい。協定の調印式を行いたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いたします。

したがって、ちょっとくどいようございますが、恐らくは3月の上旬から中旬にかけて再度小委員会を開催しまして、最終的な取りまとめを行いたいと、このようなスケジュールで考えておりますので、よろしくお願いたします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。今の日程につきまして何かご質問がありましたら。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

よろしくご協力いただきたいと思います。ありがとうございました。

以上で本日の小委員会の日程はすべて終了いたしました。

ご協力どうもありがとうございました。非常にスムーズに事が運びましてありがとうございました。

これで第2回の小委員会を終了させていただきます。

（散会 午後7時45分）